

◆『交響する古代—東アジアの中の日本—』東京堂出版

はじめに

目次

第1篇 東アジアにおける国家形成と文化

第1部 東アジアのなかの中国と日本列島

文字と文明

王 巍 4

出土文字資料と古代史研究—中日韓三国の古代木簡を例として—

徐 建新 15

所謂「天鳳三年 鄣郡都尉」磚銘文と秦「故鄣郡」の名称及び王莽新時代の年号問題

辛 徳勇 32

弥生時代の海上交易

石川日出志 45

第2部 古墳の形成

日本における古墳時代の歴史的意味

大塚 初重 60

三国・古墳時代における韓日交渉の変遷と歴史的な背景

朴 天秀 79

現実と理想の間

斉 東方 97

第3部 日本列島の文明化と古代文化

文字の受容と日本語

神野志隆光 120

列島の文明化と国家のしくみ

吉村 武彦 139

聖武天皇による恭仁京造営と隋唐洛陽城

小笠原好彦 157

平野と山地の農耕—相模国の事例から—

高瀬 克範 178

移動する神と人—『風土記』を中心に—

堂野前彰子 196

東北古代と黄金

永藤 靖 214

『古事記』『万葉集』と南方文学—「日の御子」と「てだこ」の表現から

居駒 永幸 231

第2篇 都市空間と物語

第1部 都市文化と平安京

中世京都の中の平安京

マシュー・スタブロス 258

平安期における国衙—結節点としての地方「都市」—

渡辺 滋 275

もう一つの平安京—藤原明衡の『新猿楽記』における「都市」—

ジョアンR・ピジョー 295

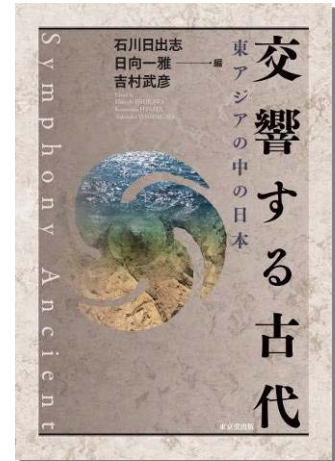
新羅王城慶州に関わる朝鮮(李朝)知識人の詩文に現れた歴史観念と心像地理

沈 慶昊 313

第2部 古代貴族と文化

国風文化新探—類聚の世紀—

井上 亘 326



平安時代の古記録と日記文学—記主の筆録意識と筆録された情報—
後白河法皇の王権と平家物語

加藤 友康 343
牧野 淳司 372

第3部 『源氏物語』研究の新展開

『源氏物語』皇統の行方—匂宮への継承をめぐって—

高橋 麻織 394

『源氏物語』の王権と年中行事—「朝賀」と「騎馬打毬」の世界—

日向 一雅 414

末松謙澄と世界文学としての『源氏物語』—あるロマンスの歴史—

マイケル・エメリック 438

編者一覧

著者一覧